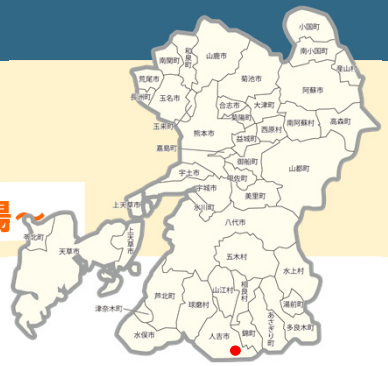
大畑麓地区（人吉市）

次世代へつなげる農業づくり～支え合い、助け合う心つながる集落・農場～



ビジョンの概要

地区の課題

・高齢化による担い手不足。集落機能の低下で集落の存続が危ぶまれる状況。
・高齢化で畦畔の管理ができない農業者が増加。多くの畦畔を大畑麓町集落協定推進の会で管理。
・費用負担の面から老朽化した農業機械の更新が困難。
・鳥獣被害対策は地域全体をカバーできない。

ビジョン

地区の目指す姿

（1）基盤整備で作付けを拡大
①残された未整備区画の整理・拡大を進める。

（2）機械と新規作物の導入で農家所得を向上
①農業機械の導入で品質向上と効率化を実現。
②くず米を有効活用。
③ズッキーニとサラダたまねぎを栽培。
④代替作物としてじゃがいもを作付け。

（3）地区内外から後継者を確保
①担い手の育成・確保を図る。
②即応予備自衛官の募集を検討。

成果目標

・水稲などの効率的な栽培の実施。
・ズッキーニの作付け面積を14a増加させる。
・たまねぎの作付け面積を15a増加させる。

ビジョン策定のプロセス

「農業組合法人おこば」が中核となりスタート

賃金が払える収益作物を

組合員の賃金が払える程度の収益でいいから、新規作物を導入して経済効果を目指す。比較的手間がいらないたまねぎ、収穫期間が長いズッキーニを栽培。併せて、土壌分析を踏まえた肥料の散布を行い、品質向上を図る。

農業機械の導入が不可欠

傾斜地が多く、排水路整備が不十分で、農業機械が重要な役割を担う。機種の選定は事業を左右する重要事項。中心メンバーで慎重な検討を重ねた。

合意形成と最終調整

地区の合意が得やすく、労働力や機械操作の面から「農事組合法人おこば」で対応することに。法人が栽培を担当、組合員が協力して行う。

具体的取り組み

（1）基盤整備で作付けを拡大

●残された未整備区画の整理・拡大を進める
→基盤整備が未整備のエリアが残っているため、令和5年～10年度に県営事業で区域の整理・拡大を進める。
土地の集積比較的進んでおり、「農事組合法人おこば」や担い手農家が約8割を所有。担い手にさらに集積を進める。

（2）機械と新規作物の導入で農家所得を向上

●農業機械の導入で品質向上と効率化を実現
→3か年かけて順次、農業機械を購入。機械の共同利用による生産経費の軽減、作業の効率化・省力化も進んだ。

●くず米を有効活用
→くず米に混じったひえなどを機械で除去し、みそ用米としてJAくまに加工を依頼。農事組合法人おこばを通して販売している。
●ズッキーニとサラダたまねぎを栽培
→ズッキーニは人件費がかさむのが難点。サラダたまねぎは病気にかかりやすく、貯蔵がきかない。いずれも継続栽培は困難。

●代替作物としてじゃがいもを作付け
→じゃがいもは新たな販路を開拓中。甘長とうがらし、薬用作物ミシマサイコはいずれも収獲は安定し、収益は上がる。高単価作物として、新規就農者にも呼び掛けている。

（3）地区内外から後継者を確保

●担い手の育成・確保を図る
→高齢化などで法人の構成員は26人から21人に。地区内外から担い手の育成・確保が急務。
●即応予備自衛官の募集を検討
→まだ案の段階。

成果

成果目標

・水稲などの効率的な栽培の実施。
・ズッキーニの作付け面積を14a増加する。
・サラダたまねぎの作付け面積を15a増加する。

結　果

・水稲栽培は目標設定がなかったため不明。
・ズッキーニは人件費がかさむため栽培は未定。代替作物としてじゃがいもの栽培を開始。
・サラダたまねぎは栽培を断念。代替作物として甘長とうがらし、ミシマサイコを検討。

今後に向けて

土地集約型から土地利用型・施設園芸型に移行して労働力の確保を目指す